



小学校のテストは ばっちりだね！



子供の数も減り、合併する小学校も増えてきていますが、
中学校や 高校と比べてプールがある小学校は多いです。
しかし、小学校の授業では水慣れが中心の授業というのがほとんど。
生徒の数も多い為、生徒の泳力で細かいクラス分けをする事が困難になります。
そのため、学校の授業だけでは、泳力向上が困難だったり。

今現在の小学校でクロール・平泳ぎ・背泳ぎを学ぶことができる学校が多いと思います。イマンの
カリキュラムは、クロール→背泳ぎ→平泳ぎ→バタフライの順番で学ぶ事が出来るので、平泳ぎ級まで
習うと学校のテストを合格して、学校を卒業することができると思います。しかし、小学校の授業だけでは、
平泳ぎの脚がなかなか難しく、習得するのに多くの時間がかかり、なかなか習得できずにいる子が多い
のではないのでしょうか。イトマンでは、平泳ぎを習得できるだけでなく、**基礎体力作り**や運動を通して
免疫力もつくっていきます。そして、違う学年や違う学校のお友達と水泳を習う事で友達の輪も広がり、
社会性を学ぶ事も出来ます。

知っていましたか。。。

小学校では、バタフライ以外の3種目が泳げるようになることを目標としたカリキュラムとなっていますが、 中学校では、**バタフライも泳げるようになることを目標**とされています。ですので、小学校で平泳ぎを習得したぞと満足していても中学校にいくと今度は、バタフライ習得を目指すようになっていきます。また、その先の高校・大学でも水泳の授業がある学校もあるので、平泳ぎが泳げない・・・、平泳ぎまでは泳げるけどバタフライは 泳げない・・・となると精神的に学校がきつと感じるかもしれません。イトマンでは平泳ぎ・バタフライを 習得することが出来るので、是非バタフライまで続けて頂くことをオススメします！

社会性を育てるにはどんなものが必要？

先ほど社会性という言葉が上がったので、それに関するお話をしたいと思います。社会性には、様々な種類があります。

- ①**自己表現力**（自分の気持ちや感情を様々な方法で形にして、それを人に伝えられる力）
- ②**自己コントロール力**（誘惑や衝動に直面した際に、自己の意志で感情、思考、行動をよくし得る力）
- ③**状況判断・問題解決力**（起こっている問題を理解し、自分なりの考えを持ち、具体的にどう行動するか）
- ④**親和的知的能力**（ありがとう・ごめん等の挨拶を言える力）
- ⑤**思いやり**（その人の身になって考え、推察して気遣いをする）

こういった種類があります。

年少者の課題は、一言で表現するなら、「**人と関わるのが好き**」ということと、**集団活動に進んで参加**できる ことです。そして、年長者になるにつれ、そうした関わりを通して、**進んで協力できた、自分から働き掛けが できた、誰かの役に立つことができた**、という集団の一員としての自信や誇りの獲得が課題となります。

異年齢の交流活動についての記事を見つけました。そこには、他の人とうまく関わりを持てることを高く評価 できる児童が増え、併せて学校への適応感も高まった、つまり、他の人との関わりについての自己評価が高まる ことが分かったのです。人と関わることに慣れ親しむだけでなく、集団の一員としての自覚が促されて、約束を守る事や、力の弱いものをかばうことなどのスキルも成長することができるのです。

イトマンでは、ほぼ全てのクラスで様々な年齢のお子様が集まっています。イトマンでも、水泳を学びながらし自然年年齢交流が出来るのです。社会性は、将来非常に大切なスキルなので、イトマンで泳力を磨きながら、社会性を一緒に磨いてみるのはいかがでしょうか。

1級合格で、お子さまの輝ける場所をより増やしてあげましょう！！